

令和8年第1回富谷市議会定例会

一般質問通告書

質問順	氏名	質問順	氏名
1	青柳 信義	7	荒谷 敏
2	菅原 福治	8	菊池 美穂
3	渡邊 俊一	9	畠山 由美
4	出川 博一	10	長谷川る美
5	浅野 直子	11	伊藤 嘉樹
6	須藤 義	12	渡邊 清美

議 長	副 議 長	事務局長	書 記

受付番号	1
受付月日	2月16日(月)
受付時間	8:49

一 般 質 問 通 告 書

令和 8年 2月16日

富谷市議会

議長 畑 山 和 晴 殿

富谷市議会議員 15 番 青柳 信義

質 問 方 式 一括方式 ・ 一問一答方式

令和8年第1回 富谷市議会定例会における一般質問を、富谷市議会会議規則
第62条第2項の規定により別紙のとおり通告いたします。

議 員 名	青柳 信義
質 問 方 式	<input checked="" type="checkbox"/> 一括 一問一答

No. 1 質問件名 本市におけるひきこもり・8050問題・ヤングケアラーへの包括支援について

【質問要旨】－簡明に－

ひきこもりの問題は、若年層に限らず中高年層にも広がり、親の高齢化と重なることで、いわゆる8050問題へと発展するケースが全国的に指摘されています。

こうした家庭内で、子どもや若者が過度な負担を担うヤングケアラーの存在も社会課題となっています。

これらのことは、高齢、障がい、子ども、生活困窮といった複合分野が重なり合う「世帯単位の複合課題」とも言われ、社会課題となっています。

本市は、仙台市のベットタウンとして発展、子育て世代の流入があった一方で、親世代の高齢化が急速に進行するという特徴を持っています。その結果、高齢の親と同居する中高年のひきこもり、親の介護や家事を担うヤングケアラーが家族内の問題を抱え込み、外部とつながらない孤立世帯が表面化しにくい形で存在している可能性が高いと考え、以下質問します。

【質問項目】－列 記－

- 1 ひきこもり状態にある方の実態をどのように把握しているのかお伺いします。
- 2 ひきこもり状態にある方、その家族に関する相談状況と、支援体制をお伺いします。
- 3 ひきこもりの長期化が8050問題につながるケースについてどのように認識し対応しているのかお伺いします。
- 4 ひきこもり世帯の中のヤングケアラーが潜在している可能性について、どのように把握し、対応しているのかお伺いします。
- 5 ヤングケアラーにおいて、教育委員会と福祉部の連携で、家庭内の困難を早期に把握する仕組みは機能しているのかお伺いします。
- 6 厚生労働省が示している、重層的支援体制整備事業交付金の大幅削減に対する本市への影響についてお伺いします。

答弁を求める者 市長

議 長	副 議 長	事務局長	書 記

受付番号	2
受付月日	2月16日(月)
受付時間	9:58

一 般 質 問 通 告 書

令和 8年 2月16日

富谷市議会

議長 畑 山 和 晴 殿

富谷市議会議員 10 番 菅原 福治

質 問 方 式 一括方式 ・ 一問一答方式

令和8年第1回 富谷市議会定例会における一般質問を、富谷市議会会議規則
第62条第2項の規定により別紙のとおり通告いたします。

議 員 名	菅原 福治
質 問 方 式	<input checked="" type="checkbox"/> 一括 一問一答

No. 1 質問件名 「第2次富谷市総合計画」について

【質問要旨】－簡明に－

第1次富谷市総合計画は10年の満了を迎えました。この間、選択と集中による行財政運営、仙台都市圏近郊の立地を活かし、若い世代の定住の維持による人口増加、更には、子育て支援を重点施策に位置づけ、保育・教育環境の整備を図り、きめ細かな行政サービス等々「着実な基盤づくりを図り急成長」を果たしました。これからは高齢化問題、新産業の更なる創出、基幹公共交通の進捗、中核都市としての自立性と質の向上に舵を切らなければなりません。

新年度より「第2次富谷市総合計画」がスタートします。そこで、まちづくりの将来像、人口フレーム、基本目標について伺います。具体的には、第2次計画に対する想い、市民力の役割分担とサポート支援、若者の市内就業率の向上、成田二期北工業用地のインフラの整備、コメの生産調整の矛盾、不登校の減少、高齢者支援等々について伺います。

【質問項目】－列 記－

- 1 社会情勢が大きく変化する中で、第1次総合計画の検証を踏まえ、第2次総合計画においては、どのような点を重視したまちづくりを進めるのか。
- 2 市民力に期待する行政の責任として、行政の役割分担と具体的サポート支援等、環境整備が必要と思いますが、如何でしょうか。
- 3 令和2年の国調での市内就業者率は、市内約40%・市外は60%です。人口増加を目指すには、地元で働く場をもっと増やし、若者が市内で一気通貫できるまちを。
- 4 成田二期北工業用地の整備は、熊本のジャスム・千歳のラビダスで実施されたように、どんな半導体企業の要請にも応じられる、すぐ使えるインフラの整備を。
- 5 コメの増産を方針転換し、需要に応じて生産するとした国によるコメ政策の矛盾について、行政としてどのように考えているのか。
- 6 不登校の生徒を減少させるために、本市での多様で柔軟な教育課程として、不登校特例校以外に、オンライン学習等、出席扱いの柔軟運用の実態について。
- 7 高齢者の支援には地域住民との連携が必要と考えます。支援の必要な高齢者に対して、どのようにして地域力、市民力を繋げるのか、伺います。

答弁を求める者 市長

議 員 名	菅原 福治
質 問 方 式	一括 一問一答

No. 2 質問件名 ロープウェイ等の基幹公共交通を成田地区まで延伸を

【質問要旨】－簡明に－

本市は、住みたくなるまちとして、100年間人が増え続けるまちにふさわしい交通環境に向けて、泉中央駅までの新たな基幹公共交通の検討を行っています。

これまでに、将来の公共交通ネットワークとして、地下鉄、BRTに加えて新たに「都市型自走式ロープウェイ」の可能性の検討を行っております。

基幹公共交通軸の整備は、富谷市内と泉中央駅を速達性、定時性の高い移動手段で結ぶ事により、富谷市内から仙台方面への公共交通での移動の利便性をより大きく向上させる事が最大の目的です。そこで、昨年、「都市型自走式ロープウェイの導入可能性調査」が完了し、様々な区間の課題について、物理的には導入可能であると事業費等の調査結果が出ましたが、その後の状況について伺います。

今回は、現状の運行区間の考え方である泉中央駅から明石台までの第一段階の想定を、成田地区までを結ぶ広域的な区間に延長することを提案いたします。

公共交通整備の目的は生活者の足の確保であり、明石台まででは一部地域に留まり、成田地区まで計画を延ばすことにより、初めて生活者の足となり、生活インフラ整備に繋がると思います。このことにより、富谷市全体の基幹公共交通の整備が意図した段階・方向に進むものと思います。

これからは、ユートミヤへ市内外から様々な世代の来訪者が見込まれ、また、成田二期北工業団地の整備促進、富谷高校生の利便性等々アクセス向上は、誰もが利用しやすい公共交通と思います。そこで、伺います。

【質問項目】－列 記－

- 1 「都市型自走式ロープウェイの導入可能性調査」が完了し、物理的には導入可能であると事業費等の調査結果が出ましたが、その後の状況について。
- 2 ロープウェイ等、公共交通の利便性を大きく向上させ、意図した狙いと計画を実現させるためには、現状の運行区間の考え方である、泉中央駅から明石台までの第一段階の想定を、泉中央駅から成田地区までを結ぶ広域的な区間に延伸すべきと考えますが見解は。

答弁を求める者 市長

議 長	副 議 長	事務局長	書 記

受付番号	3
受付月日	2月16日(月)
受付時間	11:37

一 般 質 問 通 告 書

令和 8年 2月16日

富谷市議会

議長 畑 山 和 晴 殿

富谷市議会議員 16 番 渡邊 俊一

質 問 方 式 一括方式 ・ 一問一答方式

令和8年第1回 富谷市議会定例会における一般質問を、富谷市議会会議規則
第62条第2項の規定により別紙のとおり通告いたします。

議 員 名	渡邊 俊一
質 問 方 式	<input type="checkbox"/> 一括 <input type="checkbox"/> 一問一答

No. 1 質問件名 結婚・出産祝金について伺う

【質問要旨】－簡明に－

政府において、ようやく小学生への給食費を2026年度予算にて2023年度の給食費の実態調査における平均月額を基準とし、一人当たり月額5,200円を各自治体へ2026年度予算にて助成、補助されると言われておりますが、それによる我が市の給食費の予算も軽減され、軽減された予算を今後どのような事業に使用されるか議論させていただきたいと考えます。

少子高齢化が急速に進んでおる今日、我が市においても近い将来少子高齢化が急激に進むと思われることから、新たな事業展開による対策が必要と考えます。そのためにも、出生率の向上に向けた事業が必要であり、その対策の一助として、結婚祝金や出産祝金の支給を望むものであります。現在支給されておる出産育児一時金は、全国公的医療保険においては原則50万円で、産科医療補償制度に加入していない医療機関での出産や、妊娠週数22週未満の出産の場合は48万8千円となっております。

また、妊婦のための支援給付事業として、妊娠届時に5万円、出産後に一人あたり5万円支給されますが、いずれも市独自の取り組みではなく国の方針に基づいての支給であるため、次の四問にて質問いたします。

【質問項目】－列 記－

- 1 小学生一人当たりの給食費月額5,200円を国から助成された場合、本市の給食費全体の事業費がいくら軽減されるか伺います。
- 2 直近三ヶ年の平均婚姻届数について伺います。
- 3 直近三ヶ年の平均出生者数は何人か伺います。
- 4 本市独自にて、結婚・出産祝金を支給する考えがないか伺います。

議員名	渡邊 俊一
質問方式	<input checked="" type="checkbox"/> 一括 一問一答

No. 2 質問件名 太子堂団地内の道路舗装改修工事について伺う

【質問要旨】－簡明に－

令和5年6月議会において、太子堂団地内の道路舗装改修工事について質問させていただきました。

それに対し、太子堂団地の舗装道路の劣化状況は富ヶ丘地区や鷹乃杜地区と同等程度であり改修の優先度は高いと認識しており、早期に舗装改修工事の実施時期について検討してまいります、との答弁でありましたことから、次の質問にて答弁を求めます。

【質問項目】－列記－

- 1 富ヶ丘、鷹乃杜地区の道路舗装改修工事の現状について伺います。
- 2 太子堂団地の舗装改修工事については早期の実施開始を検討すると答弁されておりますが、改修工事の年度計画を求めます。

答弁を求める者 市長

議 長	副 議 長	事務局長	書 記

受付番号	4
受付月日	2月16日(月)
受付時間	13:40

一 般 質 問 通 告 書

令和 8年 2月16日

富谷市議会

議長 畑 山 和 晴 殿

富谷市議会議員 14 番 出川 博一

質 問 方 式 一括方式 ・ 一問一答方式

令和8年第1回 富谷市議会定例会における一般質問を、富谷市議会会議規則第62条第2項の規定により別紙のとおり通告いたします。

議 員 名	出川 博一
質 問 方 式	一括 一問一答

No. 1 質問件名 8年度当初予算案の重点事業は

【質問要旨】－簡明に－

新たなまちづくりの指針となる、第2次富谷市総合計画に定める将来像「住みたくなるまち日本一・100年間ひとが増え続けるまち」の実現のための

3つのまちづくりの柱

- ① 未来につながる持続可能なまちづくりの推進
- ② 緑豊かな自然と魅力ある都市が調和した田園都市の実現
- ③ 子どもから高齢者まで誰にでもやさしいまちづくりの推進

に基づく施策を推進する予算の策定は、一般会計予算190億円（対前年度比▲19億2千万円・▲9.2%）となり、7年振りに対前年度を下回りました。

重点施策等について、以下質問します。

【質問項目】－列記－

- 1 最終年度1ヶ月を残し各施策の進捗状況や目標達成状況はどのような見通しか。
- 2 ユートミヤ（スイーツステーション・児童屋内遊戯施設・市民図書館）の運営と維持管理事業について。
- 3 総合病院建設等にかかる明石台地区都市再生整備計画策定について。
- 4 大亀山森林公園維持管理事業と森林再生プロジェクト事業について。
- 5 市立小学校・中学校の水泳学習事業の外部委託について。
- 6 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業について。
- 7 清掃センター移転事業（新たなストックヤードの整備）について。

答弁を求める者 市長

議 員 名	出川 博一
質 問 方 式	一括 一問一答

No. 2 質問件名 教育職員の勤務実態は

【質問要旨】－簡明に－

今、教育職員の長時間にわたる勤務実態や、業務量過多が全国的な問題になっています。

本市では、令和元年7月に「富谷市立学校における学校の働き方改革に関する取組方針」を策定し、長時間勤務の縮減に取り組んできましたが、月45時間超過の職員も未だ散見され、業務内容の精査や業務分担の適正化も十分とは言えない現状です。

本市が求める学校教育の質的向上のためには、教育職員それぞれが持つ力量を發揮できる環境づくりこそ初めて意味を持つことと考えますが、本市の現状等について以下質問します。

【質問項目】－列 記－

- 1 実施する業務量管理・健康確保措置の内容として、次の業務の具体的内容は。
 - ① 学校以外が担うべき業務
 - ② 教師以外が積極的に参画すべき業務
 - ③ 教師の業務だが、負担軽減を促進すべき業務
- 2 令和9年度から市内全ての学校をコミュニティスクールに移行とは、どのような考えに基づくものか。

答弁を求める者 教育長

議 長	副 議 長	事務局長	書 記

受付番号	5
受付月日	2月17日(火)
受付時間	9:37

一 般 質 問 通 告 書

令和 8年 2月17日

富谷市議会

議長 畑 山 和 晴 殿

富谷市議会議員 12 番 浅野 直子

質 問 方 式 一括方式 ・ 一問一答方式

令和8年 第1回 富谷市議会定例会における一般質問を、富谷市議会会議規則
第62条第2項の規定により別紙のとおり通告いたします。

議 員 名	浅野 直子
質 問 方 式	一括 <input type="checkbox"/> 一問一答 <input checked="" type="checkbox"/>

No. 1 質問件名 防災・減災・環境整備について

【質問要旨】－簡明に－

東日本大震災より15年を迎えます。その後の全国に及ぶ震災、豪雨災害、山林火災と未だ復旧・復興も道半ばの地域もあり、大震災を経験した私たちは、災害に対する怖さを感じながら「自分の命は自分で守る」意識を高め防災に対する備えも行ってきました。本市においては、地域防災計画を作成し広く市民の命と生活を守る推進が図られています。

しかしながら、予期せぬ災害は一瞬のうちに大被害へと発展していきます。自助・共助の更なる推進と公助との連携は基本ですが、被害を拡大させないための周知と整備、そして市民への意識向上も必要であると考えます。

また、近年の酷暑続きの対応に熱中症対策として昨年の議会答弁で、グリーンカーテンの推進が示されましたが、さらなる環境にやさしい取り組みとして「みやぎ環境税」等を活用したペットボトルが使用できる給水機を公共施設に整備することについて見解を求め、以下質問します。

【質問項目】－列 記－

1 防災・減災について

- ① 地域防災の課題についての見解を伺います。
- ② 地域防災の担い手が高齢化しており、その対策として防災サポーターズ等設置の考えを伺います。
- ③ 全世帯を対象とした防災に対する市民アンケート調査について伺います。
- ④ 「みやぎ防災」アプリの活用について伺います。
- ⑤ 大規模地震後の火災等の防止として感震ブレーカー・火災報知器等の周知の状況について伺います。
- ⑥ 備蓄品の備えやハザードマップの活用方法、重要性について伺います。

2 熱中症等による環境整備について

- ① グリーンカーテンの推進の内容について伺います。
- ② 「みやぎ環境税」等の交付金を活用し、マイボトルに補給できる冷水器等を市民センター、スポーツセンター、学校等の公共施設への設置について伺います。

答弁を求める者 市長

議 員 名	浅野 直子
質 問 方 式	一括 一問一答

No. 2 質問件名 介護用品「紙おむつ」支援 要介護3以上に

【質問要旨】－簡明に－

近年の物価高騰対策として商品券の配布を迅速に行い、高齢者の方から「年金支給前で本当に助かった」というお声も聴くことが出来ました。財源確保等、様々な困難に対応されています。

しかしながら、家族介護用品（紙おむつ）支給事業の現状は「要介護4・5」となっております。在宅介護によるトイレ介助も大変重要な部分です。認知症の初期・中期段階、紙おむつの介助も多くなる「要介護3」の方も含めた事業拡充も必要であると思見解を伺います。

【質問項目】－列 記－

- 1 家族介護用品支給事業の「紙おむつ」の現状と課題について伺います。
- 2 物価高騰による支援も含め、個人負担と支援のバランスも図りながら支援の拡充を推進することについて見解を伺います。

答弁を求める者 市長

議 長	副 議 長	事務局長	書 記

受付番号	6
受付月日	2月17日(火)
受付時間	9:43

一 般 質 問 通 告 書

令和 8年 2月17日

富谷市議会

議長 畑 山 和 晴 殿

富谷市議会議員 2 番 須藤 義

質 問 方 式 一括方式 ・ 一問一答方式

令和8年第1回 富谷市議会定例会における一般質問を、富谷市議会会議規則
第62条第2項の規定により別紙のとおり通告いたします。

議 員 名	須藤 義
質 問 方 式	一括 一問一答

No. 1 質問件名 広報紙配布体制見直しが必要では

【質問要旨】－簡明に－

本市では行政区長を通じて市民に広報紙を配布する体制をとっていますが、近年では町内会の高齢化が進み、広報紙の届け方に苦慮している町内会も少なくないようです。そのため、高齢化した町内会の負担軽減を図るため広報紙の配布体制の見直しが急務だと考えます。

福岡県糸島市をはじめ、配布体制を見直し外部のポスティング業者に委託する自治体は近年増加してきており、総務省からも「市区町村における広報紙の配布方法（民間委託等）に係る事例集」が公表されるなど、全国で多数の自治体が広報紙配布体制の見直しを行っていることが分かります。

次に検討すべき点は、現在の紙媒体からWEB媒体への変更です。これによって配布部数だけでなく印刷部数も減少しますので、こうして削減された経費を紙媒体の外部委託費用へ充てればよいというわけです。また、WEB媒体を使用することで、動画や音声の掲載が可能になったり、関連リンクで詳細情報へ誘導できたり、よく読まれている記事の分析ができる他、オンライン申請やアンケートの即回答につなげるなど、双方向コミュニケーションが可能になる点もメリットとして挙げられます。

以上のことから、高齢化率が高い行政区ではポスティング業者への外部委託を導入しつつ、比較的平均年齢が低い行政区では紙からWEB媒体に切り替えるなど、ハイブリット方式を導入して広報紙の配布体制を見直すことを提案し、以下の通り質問します。

【質問項目】－列 記－

- 1 町内会の高齢化が進み、広報紙の届け方に苦慮している町内会があることについて見解は。
- 2 ポスティング業者への外部委託やWEB媒体に切り替えるなど、広報紙の配布体制を見直すことについて見解は。

答弁を求める者 市長

議 員 名	須藤 義
質 問 方 式	一括 一問一答

No. 2 質問件名 校務のICTやDX活用状況は

【質問要旨】－簡明に－

平成31年に国の中央教育審議会において、「学校における働き方改革について」の答申がなされたことを受け、文部科学省に「学校における働き方改革推進本部」が設置されました。その結果、公立学校の教員の勤務時間の上限に関するガイドラインが策定されるなど、学校の働き方改革が促進されています。

しかし、2025年9月の共同通信社の記事によりますと、未だ全国で教職員の97%が定時退勤できずに時間外労働をしており、75%が土日にも仕事をしていることが分かりました。

本市では令和2年度にGIGAスクール構想により整備した児童・生徒1人1台のタブレット端末配置完了など、宮城県内でもいち早くICT機器の効果的活用や児童・生徒一人ひとりの学習ニーズに対応できる学習指導体制の強化を図ってきました。また各校が具体的にICT活用推進に取り組めるよう、ICT運用支援業務を委託していることは承知しておりますが、しかし一方で、働く教員の校務におけるICT機器の効果的活用や更なる校務DX化を推進して学校の働き方改革を行うという点においては、まだ取り組む余地が残っているのではないのでしょうか。

本来、教員はできるだけ事務作業を減らし、子どもたちと向き合う時間を確保できる状況にあるべきです。本市の教員たちの働きやすい環境整備を目指して、以下のとおり質問します。

【質問項目】－列記－

- 1 本市では「校務分掌」、「事務処理」、「提出物やテストのチェック」等にICT機器を効果的に活用したり、学校現場の更なる校務DX化を積極的に推進しているか見解は。
- 2 文部科学省「令和6年度 教育委員会における学校の働き方改革のための取組状況調査」の各項目におけるその後の進捗状況は。

答弁を求める者 教育長

議 長	副 議 長	事務局長	書 記

受付番号	7
受付月日	2月17日(火)
受付時間	9:58

一 般 質 問 通 告 書

令和 8年 2月17日

富谷市議会

議長 畑 山 和 晴 殿

富谷市議会議員 5 番 荒谷 敏

質 問 方 式 一括方式 ・ 一問一答方式

令和8年第1回 富谷市議会定例会における一般質問を、富谷市議会会議規則
第62条第2項の規定により別紙のとおり通告いたします。

議 員 名	荒谷 敏
質 問 方 式	一括 一問一答

No. 1 質問件名 富谷市地域公共交通計画と自走式ロープウェイ導入調査について

【質問要旨】－簡明に－

本市は、これまで住宅都市として発展してきました。しかしながら、近年、人口減少や高齢化の進展など、移動を取り巻く環境は大きく変化しております。公共交通政策は単なる利便性の問題ではなく「暮らし続けられるまち」であるための基盤そのものと考えます。本市では、地域公共交通の充実として、市民バスの運行、デマンド型交通の導入をはじめ様々な交通政策を展開されてきました。また、泉中央駅を結ぶ新たな基幹交通の整備検討として、地下鉄延伸やBRT導入など長年にわたり調査研究を重ねてきました。

そのようななか、令和2年に「地域交通法」の一部が改正され、市町村が中心となり、地域にとって望ましい公共交通サービスを明らかにするマスタープランとして「地域公共交通計画」の策定が努力義務化され、本市では令和7年に「富谷市地域公共交通計画」が策定されました。その中で特に、関心が高い泉中央への交通アクセスの強化策については、費用対効果や需要予測などの検証は様々行われていますが、事業実現の前提条件となる仙台市との協議や広域交通政策としての位置づけなど、市民理解を得るうえで重要と考えます。限られた財源の中で市民全体にとって公平で持続可能な交通政策を構築することが重要と考え、以上のことから本市の公共交通政策の具体的な進捗と取り組みについて伺います。

【質問項目】－列 記－

- 1 市民バスの令和8年度における路線改正は。
- 2 とみや公共ライドシェア実証運行の成果は。(利用実績、市民評価、今後等)
- 3 自走式ロープウェイ導入調査業務について。
 - ① 南相馬市における実証実験の進捗状況は。
 - ② 仙台市との公式協議の状況と仙台都市圏公共交通政策への位置づけは。
 - ③ 今後の具体的な事業推進スケジュールは。
 - ④ 導入可能性調査報告書に記載されている今後の課題への具体的な対応は。
- 4 公共バス交通の充実強化策は。(運賃助成、通勤通学時間帯増便等)

答弁を求める者 市長

議 員 名	荒谷 敏
質 問 方 式	一括 一問一答

No. 2 質問件名 中学校部活動地域展開の進捗状況と新ガイドラインについて

【質問要旨】－簡明に－

部活動地域展開に関しては、昨年6月定例会で一般質問させていただき、令和8年度の中総体終了後から地域展開が可能となった種目から、順次休日の部活動を終了し、地域クラブにゆだねていくという方針のもとに、富谷市の支援策として、「地域スポーツクラブ・文化芸術クラブ認定制度」並びに「クラブ設立支援補助金」を創設し、クラブ設立に向けて推進していくと説明されました。

その後、昨年12月に文部科学省から新たに「部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する総合的なガイドライン」が示されました。

令和5年度から7年度までの「改革推進期間」も終わり、令和8年度から13年度までの6年間で新たに「改革実行期間」と位置づけ、部活動の地域展開の実施を推進するとしています。

中学校部活動の地域展開は重要な教育改革の一環であり、本市として新ガイドラインをしっかりと受け止めていただき、市民・学校・地域クラブそして行政が一体となり確実な進捗を図る必要があると考えます。

本市では、これまで積極的に対応しておりますが、新たな文部科学省のガイドラインの方針を受けて、今後、さらにどのように対応していくのか、これまでの進捗状況と、今後の取り組みについて伺います。

【質問項目】－列 記－

- 1 本市のこれまでの地域展開の状況は。（改革推進期間における達成度等）
- 2 学校が引き続き重要な役割を担っていく前提と考えるが、学校施設の活用や教員の兼職兼業による指導参加などについて本市の方針は。
- 3 設立された地域クラブと学校関係者との関係強化が必要と思うがその対応は。
- 4 新ガイドラインによる本市の具体的な推進政策に関する令和8年度当初予算関連経費計上は。

答弁を求める者 教育長

議 長	副 議 長	事務局長	書 記

受付番号	8
受付月日	2月17日(火)
受付時間	10:28

一 般 質 問 通 告 書

令和 8年 2月17日

富谷市議会

議長 畑 山 和 晴 殿

富谷市議会議員 6 番 菊池 美穂

質 問 方 式 一括方式 ・ 一問一答方式

令和8年第1回 富谷市議会定例会における一般質問を、富谷市議会会議規則
第62条第2項の規定により別紙のとおり通告いたします。

議 員 名	菊池 美穂
質 問 方 式	<input checked="" type="checkbox"/> 一括 一問一答

No. 1 質問件名 学区再編問題の今後について

【質問要旨】－簡明に－

私は令和6年第4回定例会一般質問にて、国道4号を横断して、富ヶ丘小学校および富谷第二中学校へ通学する児童生徒の安全確保と、富ヶ丘小学校の卒業後の進学先を統一できる学区編成について質問をしました。

その後、市では、PTA役員をはじめ行政区長との協議、昨年12月には学区再編アンケートが実施され、その結果を受け、再編は「時期尚早」と判断されました。保護者・地域の皆さんはもとより、児童生徒の意見を大切にされたことを評価する一方で、残った課題、見えてきた課題へのフォローは必須と考えます。

本市でも少子化が進む今後、ますます長期的な目線に立った教育環境の整備は重要と捉え、以下質問します。

【質問項目】－列記－

- 1 これまでの検討状況について。
- 2 PTA役員、行政区長との協議および保護者と児童生徒への学区再編アンケートの内容と結果の分析について。その中で、具体的にどのような意見がありましたか。
- 3 残った課題、見えてきた課題について。
- 4 今後の少子化を見据え、人口動態、適正な学校規模、バランスをどのように整理していくのですか。

答弁を求める者 教育長

議員名	菊池 美穂
質問方式	<input checked="" type="checkbox"/> 一括 一問一答

No. 2 質問件名 第二子以降の保育料無償化を求める

【質問要旨】－簡明に－

多子世帯は、教育費や生活費など家計にかかる負担が大きく、就学や進学、子育てに対する不安の声が多く聞かれます。本市でも少子化が進む中、子どもを安心して産み育てられる環境の整備、多子世帯に対する支援の拡充は喫緊の対応が求められていると考えます。このことから、私はこれまで多子世帯への保育料制限の撤廃を求め質問を重ねてまいりましたが、検討状況はいかがでしょうか。

令和7年第2回定例会一般質問では、「学校給食費無償化が国負担で実施された際には、多子世帯の保育料軽減に率先して取り組む」とご答弁いただき、国の方針も見えてきた今、さらに仙台市での新年度予算編成の動向も見据え、今こそ本市でも、第二子以降の保育料無償化をご英断されるべきであると考え、以下質問します。

【質問項目】－列記－

- 1 第二子以降の保育料の必要性について、また、市民からどのような要望の声が届いているのか、確認します。
- 2 ネットとなっている課題・懸案事項は何ですか。
- 3 仙台市の動きをどのように捉えていますか。
- 4 年齢制限の撤廃および所得制限の撤廃を行った場合の本市負担について。どちらかではなく、併せて実施することが望ましいと考えますが、見解は。

答弁を求める者 市長

議 長	副 議 長	事務局長	書 記

受付番号	9
受付月日	2月17日(火)
受付時間	11:16

一 般 質 問 通 告 書

令和 8年 2月17日

富谷市議会

議長 畑 山 和 晴 殿

富谷市議会議員 4 番 嶋山 由美

質 問 方 式 一括方式 ・ 一問一答方式

令和8年第1回 富谷市議会定例会における一般質問を、富谷市議会会議規則
第62条第2項の規定により別紙のとおり通告いたします。

議 員 名	畠山 由美
質 問 方 式	一括 一問一答

No. 1 質問件名 公共交通の課題解決にむけて

【質問要旨】－簡明に－

本市では都市型自走式ロープウェイの導入可能性調査を実施し、泉中央駅から明石台地区までの基幹公共交通の選定に取り組んでいます。同時に、「誰もが利用しやすく、持続可能な公共交通サービスの実現」を目指し、民間路線バス、市民バス、デマンド型交通の再編を行い、昨年末には、ライドシェアの実証実験事業を施行し、より利便性が向上するよう調査改善し事業を進めています。

現在、超高齢化社会を迎え、市民の生活を支える交通事業は大変重要な課題であり、バスの運転手確保が困難な状況にある中、全国の自治体ではレベル4相当の自動運転バス（運転手不要）の実証実験を進めています。また、普通免許で運転可能な小型の低速電動バスを導入している自治体もあります。

本市の市民バスを利用している方から、バス停までの距離が遠い、帰りのバス時間まで待ち時間が長いなどの声があります。このような課題を解決し、より利用しやすい公共交通を実現するため、本市においても自動運転バスなどの実証実験に積極的に取り組むべきと考え、以下質問いたします。

【質問項目】－列 記－

- 1 市内随所から、明石台地区までの移動手段をどのように考えていますか。
- 2 全国の自治体でレベル4相当の自動運転バスの実証実験が進んでいます。本市において導入の可能性について見解をお伺いします。
- 3 バス停までの距離を縮めるため、住宅地の狭い道路も走れる小型バスの導入と、バス停を増やす政策について、本市の見解をお伺いします。
- 4 市内の人口分布で特に65歳以上の高齢化率が高い地域においても、デマンド型交通の利用拡大を進めるべきと考えますが、本市の見解をお伺いします。
- 5 今後ライドシェア事業は官民連携で取り組むべきと考えますが、本市の見解をお伺いします。

答弁を求める者 市長

議 長	副 議 長	事務局長	書 記

受付番号	10
受付月日	2月17日(火)
受付時間	11:27

一 般 質 問 通 告 書

令和 8年 2月17日

富谷市議会

議長 畑 山 和 晴 殿

富谷市議会議員 13 番 長谷川 る美

質 問 方 式 一括方式 ・ 一問一答方式

令和8年第1回 富谷市議会定例会における一般質問を、富谷市議会会議規則
第62条第2項の規定により別紙のとおり通告いたします。

議 員 名	長谷川 る美
質 問 方 式	一括 一問一答

No. 1 質問件名 認知症施策の充実と予防的視点について

【質問要旨】－簡明に－

本市では、高齢者ケアパスの整備や見守り支援、物忘れ相談、家族支援など、国の「共生社会の実現」に沿った認知症施策を推進していると認識しておりますが、

一方で、早期の気づきや相談につながるまでの課題、発症後の進行に伴う本人・家族の負担の増大も指摘されております。

今後は、発症後の対応に加え、発症前・初期段階からの予防的視点や生活の質の向上をどのように位置づけていくのかが課題であると考えます。

また、音楽療法などエビデンスの蓄積が期待される分野への市としての関わり方や、段階的な検証の可能性についても検討すべき点であると思います。あわせて、物忘れ相談や見守り、家族支援等を相互に連携させ、早期発見から適切な支援、見守りまでを切れ目なくつないでいく体制の強化も重要であると考え以下質問いたします。

【質問項目】－列 記－

- 1 認知症の方の心理的安定や自己肯定感の維持といった観点が、現在の施策の中でどのように位置づけられているのかお伺いします。
- 2 エビデンスの蓄積が期待される分野についての、市としての具体的な関わりかたについて、基本的な考え方をお伺いします。
- 3 現在実施している各施策を相互に連携させ、早期の気づきから支援・見守りまでを切れ目なくつなぐ体制を今後どのように強化していくのか、お伺いします。

答弁を求める者 市長

議 員 名	長谷川 る美
質 問 方 式	一括 一問一答

No. 2 質問件名 買物環境の確保と高齢者の健康を支える地域づくりについて

【質問要旨】－簡明に－

一昨年3月の西友富谷店の閉店、さらに昨年10月にはスーパーウィンマート東向陽台店の閉店により、市内の買物環境は大きく変化しております。これは個別店舗の問題にとどまらず、商業環境や人口構造の変化を背景とした構造的課題であると考えます。

とりわけ高齢化が進む地域においては、買物機会の減少が外出や交流の機会の減少につながり、健康や生活の質にも影響を及ぼしかねません。

本市第9期介護保険事業計画においても、買物支援は介護予防・日常生活支援の一環として位置づけられております。こうした計画上の位置づけや実態調査の結果を踏まえ、相次ぐ商業施設閉店の現状を的確に捉え、今後の買物環境の確保と高齢者の健康を支える地域づくりへどのように反映させていくのかという点が、今後の施策を進める上で重要であると考え以下質問いたします。

【質問項目】－列 記－

- 1 買物環境を高齢者の健康・介護予防の視点から捉える市の基本的な考えについてお伺いします。
- 2 買物に困難を抱える高齢者の実態把握と地域との連携についてお伺いします。
- 3 移動販売や宅配サービスに対する市の関与と位置づけについてお伺いします。
- 4 生活支援型訪問サービスにおける買物支援の位置づけと今後の活用についてお伺いします。
- 5 今後の買物環境の確保に向けた市の役割と方向性についてお伺いします。

議 長	副 議 長	事務局長	書 記

受付番号	11
受付月日	2月18日(水)
受付時間	8:42

一 般 質 問 通 告 書

令和 8年 2月18日

富谷市議会

議長 畑 山 和 晴 殿

富谷市議会議員 3 番 伊藤 嘉樹

質 問 方 式 一括方式 ・ 一問一答方式

令和8年第1回 富谷市議会定例会における一般質問を、富谷市議会会議規則
第62条第2項の規定により別紙のとおり通告いたします。

議員名	伊藤 嘉樹
質問方式	<input checked="" type="checkbox"/> 一括 一問一答

No. 1 質問件名 市民歌をカラオケに

【質問要旨】－簡明に－

市民や市に関係する方々に愛され歌われている市民歌ですが、より多くの方に沢山歌って頂くため、カラオケ配信を提案すべく、以下について質問します。

【質問項目】－列記－

- 1 市民や市に関係する方に対して市民歌を知っているか、歌えるか等の調査はしていますか。
- 2 著作権や楽曲の利用範囲等は作詞作曲者とどの様な契約になっていますか。
- 3 カラオケ化が叶えば様々な方が全国で富谷の名を口にすることになります。そのプロモーション効果をどのように捉えますか。
- 4 カラオケ化のみならず営利を目的としない二次利用も可能にすれば、一例としてサードパーティーによる各種SNSでの発信が増え、市と市民歌の認知がより深まると考えますがどの様に考えますか。

答弁を求める者 市長

議 長	副 議 長	事務局長	書 記

受付番号	12
受付月日	2月18日(水)
受付時間	10:02

一 般 質 問 通 告 書

令和 8年 2月18日

富谷市議会

議長 畑 山 和 晴 殿

富谷市議会議員 7 番 渡邊 清美

質 問 方 式 一括方式 ・ 一問一答方式

令和8年第1回 富谷市議会定例会における一般質問を、富谷市議会会議規則
第62条第2項の規定により別紙のとおり通告いたします。

議 員 名	渡邊 清美
質 問 方 式	一括 一問一答

No. 1 質問件名 高齢化、超高齢化に向けた対策について

【質問要旨】－簡明に－

2040年には、団塊ジュニア世代が65歳以上に達し、高齢者人口が約3929万人とピークに達し、社会保障費の増大、労働力不足、高齢者が高齢者を支える老老介護など、さまざまな問題が噴出し、2025年問題より深刻で、問題が長期化すると考えられます。

高齢化率の低い本市としても、今後、高齢者への支援の充実が必要です。要支援、要介護認定者の増加も考えられ、支援の充実が難しく、介護従事者の確保は大きな問題になっています。

また、要支援、要介護になっても、元気に暮らすためには、定期的な歯科検診が必要です。経口摂取は、全身の健康状態にも関わり、噛むことは、認知症のリスクの軽減にもつながることから、虫歯や歯周病になる前の、定期健診が必要と考えます。

高齢化、超高齢化に向けた対策は、待ったなしの状況です。支援の拡充、啓発が必要と考え以下質問します。

【質問項目】－列 記－

- 1 最新の本市の高齢化率は。
- 2 2025年問題として、本市の介護の課題は。
- 3 2040年問題をどのようにとらえているのか。
- 4 昨年の要支援、要介護の出現割合と近隣市町村との比較は。
- 5 本市の高齢者介護事業所の件数は。
- 6 介護人材の確保に対する市の見解は。
- 7 高齢者への、歯科定期健診の実施状況と啓発の現状は。

答弁を求める者 市長